

会 議 録

平成 27 年 12 月 25 日調製

審議会等名	平成 27 年度 第 2 回 社会教育委員会議及び公民館運営審議会		
公開の別	全 部 公 開		
開催日時	平成 27 年 11 月 30 日（月） 午後 7 時～ 9 時		
開催場所	三条市中央公民館 音楽視聴覚室	傍聴者	なし
		報道機関	なし
出席者氏名	委員 (14 人)	小林 斉子委員（議長） 高橋 邦彦委員 倉品 章委員 高橋 清委員 石原 房子委員	丸山 正夫委員（副議長） 本田 寿之委員 鈴木千佳子委員 米山 文子委員 石黒 正晴委員
	職員 (11 人)	長谷川生涯学習課長兼中央公民館長 高須図書館長兼歴史民俗産業資料館長 坂井嵐南公民館長兼栄公民館長 佐藤井栗公民館長 内山本成寺公民館長 山田大崎公民館長 田中大島公民館長 阿部生涯学習推進係長 鈴木（智）主任	
議 題	(1) 平成 27 年度生涯学習・社会教育事業の中間報告について ① 中越地区公民館長・主事・公運審研修会 【事例発表】きっかけの 1 歩事業について ② 上半期各公民館主要事業取組状況について ③ 上半期図書館事業取組状況について ④ 上半期諸橋轍次記念館取組状況について		
	(2) 平成 28 年度生涯学習・社会教育事業の方向性について		
	(3) その他		
会議内容	別紙のとおり		

小林議長	<p>これより、平成 27 年度第 2 回三条市教育委員会議及び公民館運営審議会を開催いたします。本日、阿久津委員欠席のほか、皆様お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>それでは長谷川生涯学習課長から御挨拶をお願いいたします。</p>
長谷川生涯学習課長	<p><課長挨拶></p>
小林議長	<p>それでは議題に入ります。(1) 平成 27 年度生涯学習・社会教育事業の中間報告についてであります。今ほどの課長の御挨拶にもありましたように、去る 10 月 8 日平成 27 年度中越地区公民館長・主事・公運審等研修会三条大会の席上で阿部係長から平成 27 年度新規重点施策の「きっかけの 1 歩事業」の事例発表がございました。今日御出席の委員の中で半数の方が当日欠席でしたので、そのスライドを見て共通理解を深めながら、みなさんと中間報告についての意見を交わしたいと思いますので、まず阿部係長から、きっかけの 1 歩事業の事例発表をお願いします。それが終わりましたら次に、上半期の各公民館事業の取組状況、それから上半期の図書館事業の取組状況、上半期の諸橋轍次記念館の取組状況と続けていただきます。</p>
阿部係長	<p><資料No.1></p> <p>きっかけの 1 歩事業について (中間報告)</p>
高須図書館長	<p><資料No.2></p> <p>平成 27 年度上半期各公民館主要事業取組状況について説明</p>
羽賀諸橋轍次記念館長	<p><資料No.4></p> <p>平成 27 年度図書館中間事業報告について説明</p>
小林議長	<p><資料No.5></p> <p>平成 27 年度諸橋轍次記念館事業中間報告について説明</p>
小林議長	<p>議題 (1) の中越地区公民館長・主事・公運審等研修会の事例発表を阿部係長から説明を受けたわけでございます。それから上半期各公民館主要事業取組状況について説明していただきました。今までにない試みであったように思います。事例発表を見て皆さんと共通理解を持つことができたことはありがたいことと思っています。ぜひともこのきっかけの 1 歩事業について皆さんから御意見を賜りたいと思います。生涯学習社会の実現、そして生涯学習人口の拡大という大きな目標の中で、きっかけの 1 歩事業が展開されたわけでございます。まだまだ先ほどのお話でも道半ばでありますので、この生涯学習人口の拡大に向けた事業を展開できるように、この 2 つについてまず皆様から御意見を頂いて、それから図書館、諸橋轍次</p>

<p>橘委員</p>	<p>記念館について御意見を頂きたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>10月8日の事例発表の説明を受けて、2度見られた方は特に心に残っていると思いますので、意見を述べていただきたいと思います。</p> <p>私も2度見せてもらいました。1年目なのでいろんなものに顔を出させてもらおうと、都合の付くものは一通り回らせていただきました。今発表のありましたきっかけの1歩事業は、本当にすばらしいなあと2度驚いているところです。当初1回目の会議で、いろんな事業計画を見た中で、こんなにいっぱい事業を並べてできるんですかという質問をした覚えがありますが、本当に皆さん一生懸命取り組んでいらっしゃるなあと、改めてわかりました。</p> <p>下田公民館の事業がありますが、下田は足（移手段）がないとどうしようもないということがございます。参加した方はそれぞれ定員を超えたり、ある程度入っているようですが、おそらくある程度動ける人、農家でない方のほうが多かったんじゃないかと。三条地区の中心部では参加者がいっぱいおられますけれど、これも農家の御年配の方はなかなかこういったイベントには参加できないんじゃないかなと、下田だけなのかなと思ったりしておりますけど、その点についてお伺いしたいと思っています。</p>
<p>小林議長</p>	<p>要は下田地区の特徴ですが、なかなかきっかけの1歩事業に参加できないという中で、これからの取組ではこういう部分で検討していかなければならない、という御指摘だと思うんですけども。</p>
<p>長谷川生涯学習課長</p>	<p>今ほど御指摘をいただきました下田公民館の取組の中で答えさせていただきませんが、先ほどのスライドで御了解いただいたと思いますが、今まで途絶えておりました盆踊りというものを下田公民館で今回初めてやらせていただいたところです。広報さんじょうにも記載されておりましたが、自分の地区でも昔やった「盆踊り」を復活させたいというお話が来ております。来年についてもこういったものをしっかりやっていきたいと、そのためにはどうするのかという部分の中で、私どもは公民館に来ていただくのも大事でございますけれども、私どもが、特に下田公民館の3人の職員がそれぞれ地域に、団体に、老人会に出向きましていろいろなことについて意見交換させていただいています。それに基づいて地区のコミュニティ施設、集会施設等でこちらの出前事業をやらせていただいて、聞き取り調査をしたところ、地区のお年寄りの方々が、「行政が『何をしたらいいでしょうか』ではなくて、市役所が下田に来てくれて、われわれの家にまで来てくれて『どうしたらいいかね』と聞いてくれることがうれしいんだ」と。「事業・イベントは何でもいいからやってくれと、それに自分たちが声をかけて参加するからとにかくやってくれ」というありがたいお話をいただいておりますね、やっぱり下田地区の皆さんも待っていたんだなと、こんなふうに</p>

	<p>思っています、その中でも皆様方が何をやりたいのかをしっかりと受け止めている最中でありますので、そういうものを地区でやっていけたらと。ただ下田は広いことから、全域というわけにはいきませんが、割り振りをしながら、浸透させていきたいと思っているところです。</p>
<p>小林議長</p>	<p>今、橋委員の御指摘は出前事業のことも結構なのですが、結局農家の方々が仕事をしていてなかなかきっかけの1歩事業に参加できない、これは下田地区だけではなく農村地域にある公民館が等しく抱えている問題だと思いますが、そういうものにも着眼点を持って、今後の事業に取り組んでいただきたいということだと思います。</p>
<p>村田委員</p>	<p>今、お話を伺って本当に努力をされていることに頭が下がります。自分も三条市民ですので、いろいろなものに出て行ってと思います、なかなかすべての機会をとらえることができず、反省をしながら伺ってました。こちらの姿勢として待っていてもだめだから出掛けて行く、そういう姿勢というのは大事だと思います。</p> <p>三条は大変マルシェに力を入れています。マルシェそのものにはいろいろな問題点があると思いますけれども、公民館としての、図書館はひまわり号をマルシェに持っていつているという取組のことがありましたが、公民館はマルシェで何か取り組まれていたのか、やっていたのかかもしれませんが、こういう利用も考えられるのではないのでしょうか。質問ですが、資料の2ページ目ですが、27年度というところが下にありますが、これは8年間の計画ですので、最終的には8年間で頂点に達するというようになっていくのでしょうか。</p> <p>もう1つですけど、「突拍子もない事業をやる」というのは突拍子もないことだなという気がします、今までやったことのない、例えば公民館で野菜を売るなんて、いいのかどうかということになりますが、「突拍子もない」とはどういうことなのでしょう。</p>
<p>阿部係長</p>	<p>村田委員御指摘のマルシェとのコラボですが、私どもテントを張ってマルシェに出店というのは今後考えなければならぬと思っておりますので、来年度以降検討してまいりたいと考えております。</p> <p>今ほどのきっかけの1歩事業の全体スキームにつきましては、村田委員御指摘のとおりこれから8年間かけて、生涯学習社会の実現をしていくものであります。今年度、私どもは第1ステージ、来年度は2.5ステージ、プチボランティアと書いてありますけれどもそういう機会を設定した中で、もう1歩上の段階へ皆さんとともに歩みを進めていきたいと考えているところです。</p> <p>最後の「突拍子もない」という言葉ですけれども、生涯学習のすそ野を広げるとい言葉につながるとは思います、これまで公民館を利用して</p>

	<p>いる方々は引き続き御参加いただけると思いますが、どうしても公民館にお越しただけでない方々から足を運んでいただくためには、どんな視点の事業が必要かといったときに、これまで公民館ではやったことがない事業をあえて「突拍子もない」という言葉にしました。これまで公民館ではやったことのない着眼点で、今までお越しただけでない方々から1人でも多く外出してもらい、公民館に足を運んでいただくために、「気付き」や「きっかけ」の機会を数多く提供していきたいということでございます。</p>
佐藤委員	<p>資料の2ページ目の上段に、今まさしく高齢化社会が書いてありますけれども、さらに2025年には団塊世代の方が満75歳を迎える大変な時代が予想されます。そうした時に、ここに示しております23,000人というのは65歳以上の人と考えてよろしいでしょうか。8割は元気な高齢者、この方々が地域でいかに自分の力を使いながら、到来する高齢化社会に自分でできることをいかに地域として三条市として取り組んでいくことが大きな課題です。その課題は課でいえば高齢介護課かもしれませんが、ただ学ぶという視点の中ではこれから到来する社会というものを、市民がまだよく理解していない部分がたくさんありますので、今回のきっかけの1歩というのがまずもって身近な自分たちでできることから始まって、さらにはお年寄りが元気で過ごす、あるいは生活できる地域にするにはどんなことをやっていけばいいかについての視点として捉えていく必要がある。第1歩からさらに第2、第3ステージへ行くための中でどんな手段を講じることで市民一人ひとりが意識を持ちながら、地域にかかわろうという意欲がどんどん向上していくプログラムがあるといいと思います。</p>
小林議長	<p>今のお話は2.5ステージに続くお話だと思いますので、先ほどの説明の中では将来展望の中で話が出たわけですが、改めて今のお話を先ほどの話と絡めながら方向性を含めて話していただけないでしょうか。</p>
長谷川生涯学習課長	<p>佐藤委員の御指摘についてですが、私ども初めからこのような形でこう進めば1年間で目標に到達するという手法は持ち合わせておらず、今まさに模索している段階でございます。とは言いながら、今年度初めてきっかけの1歩事業、高齢者の循環型生涯学習推進の取組を始めてみて、いろいろなことがわかってきました。手段としてはお茶会でどんなことをお考えになっておられるのか、逐一お話し合いをしながらみていくことは非常に大切なことで、どういったものが要求されているのか、どういった形でやれば皆様が「きっかけ」として出てきていただけるのかということについて直接お伺いできます。もう1つは、私どもまちなかで限定的にやっている事業ですけれども、現実的にその地区以外の人参加している実態もわかってきました。それらを踏まえながら、佐藤委員から御指摘いただきましたことも着実に、これが非常に難しいんですが、ものさしを作ってこういう形</p>

<p>小林議長</p>	<p>で1年1年皆様にわかるように到達点に行けるのかということについて、一所懸命勉強させていただいている最中でございます。</p> <p>ほかにございませんでしょうか。</p>
<p>高橋（清）委員</p>	<p>きっかけの1歩事業でボランティアとして10人の人がボランティアに参加しますよということですが、具体的に男性か女性というのはおわかりですか。女性が多いんですか。</p>
<p>阿部係長</p>	<p>10人のボランティアすべて女性です。</p>
<p>高橋（清）委員</p>	<p>それを聞いたのは実は今スライドを見たり私も企画協力員を何年もやってきた中で、参加される方はどちらかというとな女性が多いんですね。多分そのお茶会でボランティアしますよという人も女性が多いのかなと思ったらやはりそうでしたけれども、内容によっては男の料理教室とかやられれば人数は集まっているようですが、男性が参加できるようなものも考えられてもいいのかなと思います。例えば御夫婦同伴で何か特典があるとか、そういうのも考えられるとまたいいのかなと思いました。</p>
<p>阿部係長</p>	<p>御指摘のとおり公民館事業、きっかけの1歩事業も含めて女性が7割8割占めているような状況です。その中で男性にぜひ出てきていただきたいという視点を持って、きっかけの1歩事業、例えば新聞に出ておりましたが、ぶらり秋空縁台将棋という事業をさせていただいて108appy事業にかわったという記事が載ってございましたけれども、男性をターゲットにした事業をこれからも考えていきたいと思っておりますし、まちなかのインタビューの中では、男性はいくつになっても女性のことを気にするというデータがありますので、そういった視点を持って何らかの事業をこれからも考えていきたいと思っております。</p>
<p>石黒委員</p>	<p>よくわからないのでお聞きしたいことがあります。私の認識では来年度からは2.5ステージということになっていますが、私の頭の中ではきっかけの1歩事業はまだ始まったばかりだと思っています。というのは公民館の職員ががんばっているのはわかるのですが、私は三条東公民館の企画協力員をやっておりますが、何とかいい企画がないとか、いい人がいないとかいろいろ聞かれるものですから、いい人というのは情報がないから探し切れないんです。少しずつ人間関係を広げながらやってきてはいるんですが、とても第2ステージとはいえないと感じています。その辺を答弁していただきたい。もう1つ、来年度4月から2.5ステージになった場合、私たちというのはどういう立場なのでしょう。ただ単にそこにいればいいのか、または評論家的にこれは良かったね、がんばったねというふう</p>

	<p>言った方がいいのか。それとももう少し自分でできること、例えば倉品先生みたいに参加して人を集めて、ああしたらいい、こうしたらいいと間を取り持ちながらしたらいいのか、とそういうことも考えてやるべきではないかなという気もしますがよくわかりません。というのは私自身そういう教育を受けてないんですよ。人を集めるとかこういう企画をするとか。その中でただ単に私の立つ位置を考えてみると不安に思います。そんなことをしなくても公民館が全部やるということであれば納得もできます。ただこうしてみると今度は人を集めなさい、協力員を探しなさい、やってもらいなさいということになった場合、私は先が真っ暗です。そういうことにかかわりながら、この8年はあつという間に過ぎていくし、果たして8年後にどうなっているのかと考えた場合、どうなんでしょうか。私たちがやることはもっとあるんでしょうか。</p>
<p>小林議長</p>	<p>今、石黒委員の御指摘ですが、「私たち」という表現が使われていたが、それは公民館運営審議会委員、社会教育委員の立場なのか、公民館の企画協力員の立場なのか、石黒委員個人の立場なのか私の中では理解ができませんでした。まずそれをはっきりしていただかないと返答もできないと思います。それともう1つ、第2ステージ、2.5ステージまで来たんだよという側と、まだ半歩ではないかという側と相当の乖離があるんですが、今まできっかけの1歩事業のパワーポイントによる資料を見せていただいて、皆さんのなかで共通理解を得た中で相当な評価を得たわけですが、しかしまだ半歩なんだよという方もいらっしゃるわけですから、その辺きちんとすりあわせをしないと、2.5ステージにはなかなかいけないと思いますので、嵐南公民館長突然ですみませんが、新通川でめざせ釣り名人の事業をおやりになったというお話がありました。その中でおそらく手応えとか、次のステップに行くかというお話があると思います。私たちは半歩じゃなくて2.5まで行っているよというお話がもしかしたらおありになるかと思っておりますので、ぜひお話をしていただければと思います。</p>
<p>坂井嵐南公民館長</p>	<p>嵐南公民館ではさきほど小林議長からお話がありましたように、釣り名人という事業をやりました、こちらは参加者全員が男性でありました。大変好評で新しい人も来たものですから来年はもっと多く釣れるような季節にやりたいと思っております。いろんな事業をやりましたけれども、来年は更にステップアップしていきたいと思っております。</p>
<p>小林議長</p>	<p>ほかに自分たちは2.5ステージに行っているという公民館がありましたらどうぞ。井栗公民館さんいかがですか。</p>
<p>佐藤井栗公民館長</p>	<p>2.5ステージというわけにはいきませんが、きっかけの1歩というのは大変いいことだと思います。私は井栗公民館長3年目ですが、何を</p>

	<p>にもきっかけの1歩、すべて新しい感覚で地区の皆さんがどのような気持ちでいるのか、そういう人たちの意見を聞いてこれがいいという事業をしています。15人くらい集まらないといくらいい事業でも成り立ちませんので、集まらないと自分の方から出かけて行って、これをするから来てくれという声掛けをします。チラシは地区の自治会の皆さんから全戸に配りますがそれでもなかなか集まらない。15人のところ10人ですと、あとの5人は職員と私で見つけてくるわけです。それで15人になると隣のお母さんが「私も行きます」というんで、15人が20人になったりする、そういうやり方で今までやってきまして、やはり人を集める方法を考えると、公民館が地域に出掛けていかなければだめだと思います。</p>
<p>小林議長</p>	<p>井栗公民館は1.5又は第2ステージに行っているという、人集めに成功しているというお話だと思います。</p>
<p>丸山副議長</p>	<p>私は第2次三条市生涯学習推進計画の策定にたずさわった立場から申し上げますけれども、今年4月から8年間にわたっての生涯学習推進計画を策定したわけですが、今御質問がいろいろ出ていますが、この1ページ目のきっかけの1歩事業というのがメインでございますが、ここに平成27年度とありますが、それは27年度からスタートしたと思っております。そして27年度で「きっかけ」作りが終わったわけではなく、これからもずっと「きっかけ」作りをやっていくということなんですね。その中から2.5ステージが出てくると。こういうふうに私は受け止めております。</p> <p>それからもう1つは、実績もすばらしいんですが、2ページ目のところに37事業を行って初めて公民館を利用した方が145人いらっしゃる。その結果10の方がボランティアとして誕生したということは大変すばらしい成果だと思っております。これはまだまだすぐにはできないと思いますので、継続的に進めていくことが大切だと思います。もう1つ、「きっかけ」作りとして進めておりましたまちなかギャラリーがございます。とにかく外に出掛けてきていただいて、見ていただいて、好きな人にはやっていただく。そのまちなかギャラリーの成果というか、例えば、中央公民館においても展示してありますね。あれもまちなかギャラリーの1つだと思いますし、私はただ見ていただくだけでなく、もう1歩進める何かをやっていただきたいと。興味のある方はお申し出くださいとか、あるいは申込書の用紙を置くとかそこまでやらないと弱いのではないかと思います。</p>
<p>長谷川生涯学習課長</p>	<p>今副議長さんから非常に貴重な意見を頂きました。全くそのとおりで、私どもその辺が不足していたなと思っております。きめ細かい配慮、目配せがいますが、しかしできることであると思っておりますのでやらせていただきたいと思っております。それから、きっかけの1歩事業は平成27年度から28年度にいくと、もう2.5ステージに行くと、第3ステージに行く、とい</p>

	<p>うことではなくて、また来年も小学校に新1年生が上がってくるがごとくやっていくと。ただ毎年毎年、同じことをやっていくのかという部分をもの辺で1歩進めて、この辺から次に行くというのものもあるかもしれません。それはとても難しいことでもありますけれども、そういうものを見極めながら少しずつステップアップしていきたいと思っています。上がっていくけれども決して第1ステージ、第2ステージのきっかけの1歩に入ろうとする人、参加しようとする人は忘れないようにと思っています。</p>
石原委員	<p>皆さんのパワー、皆さんの考え方のすばらしさにただただ感心しております。</p>
鈴木委員	<p>感想になりますが、私が仕事をしているときは公民館に足を運ぶというのはイベントがない限りはほとんどなかったと思います。やっと退職して公民館で何をやっているのかなと広報を見るようになり、そして最近をよく通うようになり、受付の方とも親しくなっているなことを教えてもらい友達が増えていきました。実際、きっかけの1歩という事業は私の家族、例えば夫に言っても「きっかけの1歩」って何だ？という認識の状態があります。私はボランティアまつりなども手話サークルで参加したときに、地域の1人暮らしのお年寄りが来られて私と話す中で、外に出てきた方がいいんですね、毎週木曜日待ってますからと言うととても元気な笑顔で帰られて、ああ私でも役に立つんだなと思ったりして、ただなかなか1歩出てくるというのが難しいんですよね。特に農家の方々とかは農作業時期だとなかなか出にくいですし足がないとか。まだ知られていないとかまだ始まったばかりですので、まだ認識が全体に普及している状態ではないのももっともっと宣伝をして、同じことでもいいと思うんです繰り返しやって0.5が1になる、1が1.2になるという形で、1歩踏み出せるような形で気軽に。この前、私がたまたま講座に来たときにきっかけの1歩カラオケイベントをやっていて、こんなにたくさんの方が来ているんだと驚きました。大ホールのコンサートなどで駐車場が足りないくらいの方が来るのは見ますけど、自主的に高齢者の方々があんなにたくさん参加されているということで、それなりに成果は上がっていると思うので、ただお茶を飲みます程度の軽い内容でもいいですから、何にも準備しなくても公民館に足が向くという企画で十分だと思うんですよね。そうすると逆に気楽に行きやすいという感じでぜひこのまま続けていっていただきたいと思います。実際に私の近所の主婦の皆さんは忙しくてなかなか出られない。私は声を掛けて一緒に出ようよというんですけど、広報もよく読んでないようですが、それでも広報活動をしっかりやっていただいて1人でも多くの方が1歩踏み出してもらえたらいいなと思っておりますので、ぜひこのまま続けていただけたらと思います。</p>

米山委員	<p>今のことに関連してですが、資料1、資料2にある写真はどこかで見られますか。ホームページなどで。個人情報の関係で無理なのかなと思ったんですけど。非常にすばらしい写真なので、展示できればこんなことをやっているんだとわかるかと思います。</p>
阿部係長	<p>御指摘のとおり見ていただくというのは非常に大事だと思っています。今本庁舎できっかけの1歩の写真を「階段へGO」ということで40枚貼っております。またこのようなパネルにして公民館でこんなことをやっているんだと見えるようにしていきたいと我々も思っているところです。</p>
小林議長	<p>生涯学習人口の拡大という視点の中ですそ野を広げましょうということでのこのきっかけの1歩事業になったわけです。この委員会では総じてこの事業を評価してくださって、もっと拡充しながら進めてくださいという御意見が大半を占めたようでございます。このきっかけは、あくまでも「きっかけ」ですから次のステップが大変重大で難しい面が出てくるかと思えます。そういう中では、私たちの意見もお聞きになった上で次のステップに上がっていただければ、きっかけの1歩事業だけでなく、次の生涯学習人口の拡大につながるものだと思っております。総じて皆様から評価をいただいたわけですから、次のステップに向かってがんばっていただければ幸いに存じます。</p> <p>それでは次に図書館及び諸橋轍次記念館の事業について先ほど説明がございました。御質問がありましたらお願いします。</p>
村田委員	<p>図書館の事業報告を見せていただくとすごくたくさんのことやって、すごく努力をされている。例えば入館者の増については、なかなかうまくいかないというお話があったんですが、十分な御努力をされているなど私は思いました。図書館というところは知的なものの静寂な空間ですので、あんまり人が集まっていけないものではない気がします。今の努力をこれからも続けられるわけですので、多くなった少なくなったというのをあまりこだわらなくてもいいのではないかと思います。でもこの図書館に向ける市民の視線とか、気持ちというのは非常に大切なものだと思いますので、それが離れてしまっただけでは情けないことになってしまいますので、図書館に係る様々な情報を、情報過多になり過ぎると受ける側は辟易とするところもありますので、市報のようなものを通してがいいと思っているんですけど、そういうところに私たち市民に返してくださるような情報提供、新しいものでもコンパクトな紙面にまとめた情報提供を充実していただくようなこともこれから力を入れていただいたらうれしいなと思っています。そしていろんな意味でマイナスの兆候が出ていることの分析をされていると思いますが、そのことをあまり気にしなくていいと思いつつも、その辺のことをどう分析されているのかお聞きしたいと思います。</p>

<p>高須図書館長</p>	<p>数多くの事業を行っていることを評価いただきありがとうございます。それに対してあまり騒然とした場所にならないようにということですが、1階は本を読んでいただく。2階がそういった集会室や視聴覚室という催し物をする部屋でそこは全く本は置いておりませんので、そういったフロアのすみ分けということがありますので、御心配には及ばないと思います。</p> <p>こういった2階離れの状況についてどういう分析をしているかということですが、やはり根本的には活字離れということが厳しくバックグラウンドにあると考えております。スマホやパソコンの普及が原因という気持ちがありますが、そんなところに転嫁して手をこまねているわけにはいきませんので、できることからということになりますとやはり繰り返しになります。いろいろと図書館に足を向け、足を向けることによって本が身近にある環境、また読み聞かせを聞いていただいている中で物語の世界があるんだということを経験していただく、そうやってだんだん本の世界に皆さんを呼び寄せる、そういうことが必要だと考えてこのような事業を展開しています。活字離れといいますか活字に呼び込むのは非常に難しく大きな課題です。これも言い訳になってしまいますが、私どもの館にとどまらず全国的な課題で、絶対正解だというのはなかなか見出しにくい。とにかく様々なことを試みてそこを克服したいところでございます。</p>
<p>小林議長</p>	<p>先ほどの村田委員からはそんなに入場者数を気にしなくてもいいじゃないかというお話が出て、それが今の答えだったんですが、確かに図書館に行くということの大事さ、ということの中で図書館の持つ意味、意義という中でスマートフォンではなく活字文化に触れるということの中で、私たちが図書館を目指すということはやはり数ということも大事であることを認識を改めてしたわけでございますが、諸橋轍次記念館の入場者数のことがだいぶ気になっているんですよ。入場者数の部分がおそらく公民館の事業も図書館の事業も、それから歴史民俗産業資料館も諸橋轍次記念館も数の部分がどうしてもそこに行くという意味で、生涯学習課長さんとしてはこのことについてどうお考えになりますでしょうか。全体的な数の部分ととらえてよろしいです。</p>
<p>長谷川生涯学習課長</p>	<p>諸橋轍次記念館ですが、例年、入場者数のデータを把握しておりますが、毎年毎年上がっているのではなく上がったたり下がったりという形です。これはどういうことかということだと記念イベントをやりますと、たくさん入っていただくということがございまして、質のいい内容があるものを皆様に提供させていただくと、やはり市民の方々、市外からも誘客という部分で見ただけの実績がございまして、新年度についても活性化事業を行っていきたいと考えているところです。活性化というのは新たな事業の掘り起し並びに、今までの継続事業も踏まえていろいろな新しい宝物がございまして</p>

	<p>て、そういったものを企画展示していただくということもございます。あとPRをもう少しうまくやっていく必要があります。今までもそうですが、決してそれがだめだったのではなく、先ほど館長が言われたようになかなか難しさがある。そういったものも私どもと一緒にやっていこうということで今計画をしているところです。これらを踏まえて各公民館、生涯学習課の中にいろんな施設があるわけですがけれども、すそ野を広げて、また核の玉を磨いていろいろな機会に、三条にはたくさんの人材、美術、歴史がございまして。そういったものをしっかり子どもたちから大人まで知らせていく、それが我々の仕事だと思っておりますので、皆様からも御指摘をいただいた中で御協力をお願いしたいと思っております。</p>
小林議長	<p>それでは議題（２）平成 28 年度生涯学習・社会教育事業の方向性について説明をお願いします。</p>
長谷川生涯学習課長	<p><資料 6 > 平成 28 年度生涯学習・社会教育事業の方向性について説明</p>
小林議長	<p>今後、全体的な事業計画が示されるわけですが、社会教育事業の方向性ということで資料 6 の平成 28 年度重点施策ということで出されました。後段の方は特に下田地区の重点施策、重点事業が載っておりますが、循環型生涯学習の推進ということで示されたわけでございまして。まだまだ全体的なものが見えない中で事業も煮詰まっていない段階だと思っておりますが、この時点で御意見がございましてでしょうか。</p>
倉品委員	<p>2 点ありますが、1 点目は 8 年間の見通しというのが見えてこないんですね。28 年度は第 3 ステージの誘導というところまで行くわけですね。そうすると 29 年度に第 3 ステージに行くということになるのかなと。8 年という大きなスパンの中での柱、各年ごとの柱がもう少し明確になるといいのかなと思います。2 点目は中段のまちなかインタビューで見えた人間の欲というこの辺の位置付けですが、ここは必要なのかなと。むしろ人間の欲というくくりではなくて、市民に聞いたニーズというかそういうものから分析されたものをここにまとめた方がストレートでわかりやすいのかなという気がします。</p>
小林議長	<p>まちなかインタビューというのは、どなたがインタビューでどういう人を対象にされたのですか。そのことも含めてお話しください。</p>
阿部係長	<p>まず倉品委員からの御指摘の 8 年間の見通しということですが、あくまで第 1、第 2 ステージは来年度も継続させていただきたい。そして事業は拡大させていただきたいと考えております。なおかつ 2.5 ステージという</p>

ところで来年度の中で我々職員力という言葉がありましたけれども、そこを磨いて第2ステージに出掛けてきていただいた方々を次のステップに登っていただくような声掛け等を行っていくということでもあります。では29年度が第3ステージ、30年度が第4ステージかというところはまだまだだと思っています。じっくり、1段1段階段を登っていきたいと思っています。

2つ目のまちなかインタビューの「欲」というところですが、三条学校給食協同調理場跡地に「まちなか交流広場」を現在建設中で、そこをどうやって活用するかというところでスマートウェルネス推進室に地域おこし協力隊という女性職員が配属されています。交流広場をどう使えば人が集まるのかを考えたときに、まちなかを中心に100人に実際お会いしてインタビューを行った中で人間の「欲」というものが見えてきたわけです。紙ベースのアンケートですと本当に何が求められているのか見えてこないの、それなら直接お会いして話を聞いていこうという活動を今年度実施し、まとめたものです。きっかけの1歩事業を考えたときに、通常の事業では出てきていただけない、それであればどういったところを攻めていけばいいのかと考えたときに地域おこし協力隊が求めてきた人間の「欲」という部分を私どもも参考にさせていただいたところです。

小林議長

まちなかインタビューのことですが、地域おこし協力隊の方が不特定多数の100人にインタビューした結果、人間の欲と感じたか見たか、これは学問的な分析ではないですよ。聞いた人の感性なり考えなりで出た言葉でしょうか。1つずつ考えると「食欲-人々の7割は興味あり。女性は8割」、と簡単に割り切られますが、果たしてこの数字が地域おこし協力隊のどこに基準点があり、それを欲とするか、データとするかで話がずいぶん違ってくると思います。食欲というみんなが持っているものに関しては7割は食欲に対して関心がありますよ、女性は8割が関心がありますよ、というより食べ物、食物に対してと置き換えてもいいのではないかと思います。それを食欲、物欲、色欲、奉仕欲もつとほかに欲があるかもしれませんが、ここに欲と限定する意味が私はわかりません。

長谷川生涯学習課長

まちなかインタビューで見た人間の欲という中で、私どもはデータを見させていただいていますが、決して欲とは書いてありません。生涯学習推進計画を作るときに、どういったことが必要なのいろいろな学術的なものを見させていただいた中で、人間がどういう形で行動を起こすのかという部分でやはり欲望という部分が非常にあります。という部分が我々の認識にあった部分があって、先ほど言われたニーズをもう少し強く色を掛けて、あんまり色欲というのはきれいな言葉ではないですが、あえて出させていただく。実際きれいごとではないですが女の人がいるから男の人がいるというのも事実でそういったことを端的にわかっていただく中で、ただ

<p>高橋（邦）委員</p>	<p>ニーズ、ニーズと書いても、言葉は適切かどうかは別としてわかりやすいという部分の中であえて出させていただきました。</p> <p>そうなのかもしれませんが、私はこの言葉は適切でないと思います。社会教育委員や公民館運営審議委員はこれについて良とできるということであるかどうかについては、もしだったら良とできるかどうか聞いていただきたいのですが、私は不適切だと思います。小学校の校長として生涯学習の中にこういう表現があることは、人間の色欲がどこにつながっているか全くわからない。であればこんなことをここに書く必要はないと思います。</p> <p>もう1つお聞きしたいのですが、来年度の生涯学習の方向性ということで説明を受けましたが、まちなかと下田地域しかないんですが、これを今御説明いただくのであれば、来年度の生涯学習の方向性としてほかの地域の方向性についてどうなっているのか、私は聞かざるを得ません。</p>
<p>小林議長</p>	<p>まちなかインタビューで見えた人間の欲という標記の一番下に、社会参加意欲を実際の活動に結びつける施策が必要だということが言いたいのがゆえに出てきた言葉であると思います。であるとすればこれを取っても社会参加意欲を実際の活動に結びつける施策が必要ですよという記載でよいのではないのでしょうか。意欲は別に表現的にまずいということはないですよ。別に色欲だの奉仕欲だの入れなくても。要は参加意欲ということでカバーできるのではないのでしょうか。それから先ほどおっしゃった下田だけなのか。これは先ほどの説明に若干あったと思いますけれども、そう思う人がいるわけですので、生涯学習課長さんからもう少し丁寧な説明をお願いします。</p>
<p>長谷川生涯学習課長</p>	<p>全体につきましては今ほど小林議長さんがおっしゃられたとおりで折り返いをさせていただきますと思います。</p>
<p>高橋（邦）委員</p>	<p>まちなかと下田以外に地域はあるのでしょうか。来年度の方向性だとしたらすべての地域で行う必要があるのではないのでしょうか。</p>
<p>長谷川生涯学習課長</p>	<p>次期総合計画の中での方向性というのは「まちなか」と「下田地域」と決まっているわけですが、栄が全く関係ないのかといえば生涯学習推進計画については委員の皆さん御承知のとおり全地域、全市でやるんだということになっておりますので、御理解をお願いします。</p>
<p>小林議長</p>	<p>まちなかと下田地域が政2策的にまずは優先的にやりますよというのが総合計画に記載されています。それを受けて、生涯学習の重点施策もそれに準じた形で実施します、こういう説明でよろしいですよ。</p>

高橋（邦）委員	<p>それは私の勉強不足でした。あともう1つ、下田地域の中で「事業の拡散、孤立世帯、やること行く場所、仲間・友人がない人たち、生きがい・やりがいの欠如」という表現があるんですが、これはこれで適当でしょうか。全体的にとってもわかりやすく、スピード感と攻めの感じがあるのはいいですが、やや表現が週刊誌的になっていないかなど。というのは私は生涯学習の品位といいますか、そういうものも大事なかなと思いますので一応申し上げました。</p>
長谷川生涯学習課長	<p>御指摘の部分について、分かりやすさというよりも配慮を欠いていたかと思しますので、適当な表記に修正したいと思います。私どもの考えとしてはご理解をいただいていると思っておりますが、表現的には少しラフであったと思います。</p>
小林議長	<p>ほかにございませんでしょうか。今日の感想を含めて御意見をお伺いしたいと思います。</p>
本田委員	<p>自分も下田の楽音祭であったり、図書館のリサイクルの本を頂いたりと参加している部分もたくさんあります。また、公民館事業を広報さんじょうで見させていただいて参加してみたいと思う魅力的なものもたくさんあるんですが、子どもの部活動や課外活動などに参加していると、なかなか参加する時間がなく、地域の活動も声を掛けられてやっと参加しているところです。今日の生涯学習事業・公民館事業などをお伺いしていると本当に人と人とのつながりが大切だということを改めて感じました。公民館や社会教育事業とかけ離れたような話もあるのかもしれませんが、「人が集まる」というところから意見を集約して吸い上げて、また来年度の事業に活かしているという点がとてもすばらしいことだと感じました。</p>
高橋（清）委員	<p>来年度きっかけの1歩事業の数が倍になります。すぐに結論ということではありませんが、なかなかどういうふうに皆さんにPRするのが難しいんじゃないかと思えます。実際問題、広報さんじょうとか、私大島なんですが、広報さんじょうに大島公民館だよりが入ってきますけど、私はこういう役目をしてますので、公民館だよりが届けば見えますが、一般市民の方がどれくらいそれを見ているかと思うんですね。それと事業数がいっぱいあるのは確かにいいことですが、シャワーを掛けようと思っても全然人に当てないでほかのところに当たっていたら意味がないと思うんですね。それをすぐこうしましょう検討してくださいではありませんが、長い目で見れば、当然どういうふうにPRしたら効率的か。今ほど井栗公民館長さんがおっしゃってましたけど、結局は自分で足を運んでお願いして来てもらうというのはいいんですが、ただ事業数が増えれば増えるほどその人が動かなければならないとなると全然意味がないんじゃないかと。結局</p>

小林議長	<p>はその人のマンパワーに頼るしかないという気がしますので、何かしらPRの方法というのを、今私も思いつきませんが、考えていけたらなと思っています。</p> <p>今話を受けて御検討ください。ほかにございませんでしょうか。</p> <p><特になし></p>
小林議長	<p>長時間にわたりまして、本日は本当に闊達なお話を十分に聞かせていただきました。皆さんからさまざまな御意見頂きありがとうございました。引き続き今後ともよろしく申し上げます。</p> <p>本日の会議の会議録については、私と事務局で調製いたしますので御了承ください。</p>